



まさかず かくま正一通信

(No.24)

ごあいさつ



皆様こんにちは。平素より温かいご指導とご支援を賜り心から厚くお礼申し上げます。

さて、あと1年余りで北陸新幹線が富山に来ます。県や市町村は、この世紀的なチャンスを活かすための取組みを加速しております。特に、新幹線駅と各地域を結ぶ2次交通の整備が重要であると思います。

4月から消費税が8%に上がります。国とこれに呼応した県の景気経済対策により、景気の腰折れを抑え、このハードルを乗り越えていくことが肝要です。

私は、昨年4月から教育警務委員会に所属し、教員の研修制度の改善による教育力の向上や女性警察官の採用増の必要性について強調してきました。新年度において何らかの前進があるものと思います。また、県立泊高校の存続は、地域の活力そのものに関わる課題として全力で取り組んでいきます。更に、様々な課題—— 並行在来線、医療福祉、防災対策、公共交通、農林水産業等々 —— に対し、地元にしっかと軸足を置いて県政に臨んでまいり所存です。

県は今、平成26年度予算編成の大詰めを迎えております。私達自民党は、これまで把握してきた多様な県民のニーズを予算に反映すべく、2月上旬に知事と予算折衝を行います。県民の皆様が安心と希望の持てる26年度県予算となるよう、責任を持って対応してまいります。

何卒、本年も皆様のご指導と叱咤激励を賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げごあいさつといたします。

平成26年2月吉日

富山県議会議員

鹿熊 正一

『かくま正一通信 (No.23)』以後の私の活動の一端を報告いたします。
皆様からご意見やご提言をお寄せ頂ければ幸いです。

各地区で県政報告会を実施

県政報告会を昨年9月から各地区で行ってきた。どの地区でも、共通の関心事は、①高齢化と人口減少が進む朝日町の活性化、②並行在来線の利便性、③県立泊高校の存続の3点。地元町議も同席していて、私と町議から報告し、また質問に答えた。特に、町民の皆さんにとって、泊高校の存続は、町の存続にも関わるといふ思いが強い。生徒の教育環境の充実を第1に考慮しつつ、町挙げての戦略的取組みをしなければならぬ。



自民党朝日町支部と友好団体との意見交換会

10月21日、23日 自民党朝日町支部は、町内の7つの友好団体と恒例の意見交換会を行った。対象団体は、朝日町社会福祉協議会、朝日町土地改良区、朝日町建設業協会、朝日町漁業協同組合、朝日町観光協会、朝日町商工会、みな穂農業協同組合である。各団体は、それぞれの団体の抱える課題や進行中の事業のみならず、町づくり全般にわたり、熱くお話をされ、活発な意見交換会となった。当支部は、頂いた意見、要望について、町議会、県議会において、しっかりと問題提起や提言をしていく予定である。



下新川海岸の整備促進を要望

11月22日 私が会長を務める下新川海岸整備事業促進議員連盟は、国交省に行き、野上浩太郎国土交通省副大臣、大野宏之国交省砂防部長等に対し、平



成26年度予算編成に向けて事業促進の要望活動を行った。毎年継続して実施しており、着実な事業進捗につながっていると思う。

下新川海岸は、全国有数の浸食海岸であり、また、富山湾特有の寄り回り波や高波による甚大な越波被害も発生しており、地域住民の安全確保が常に求められている。また、急流崩壊河川である黒部川の上流から河口にかけての河川・砂防の総合的土砂管理事業は、海岸整備と関連する重要課題であり、パッケージで要望している。

限られた財源をどう配分するか、これは政治の最大のテーマである。住民の安全確保のための公共事業はいつの時代も必要であり、当議員連盟はこれからもしっかりと活動していかなければならない。

教育警務委員会で質問

質問項目とそのポイントを記す。

11月21日

①女性警察官の一層の採用について

【質問のポイント】

県内における女性の犯罪被害者の全体に占める割合が約35%、また女性の警察相談件数の全体に占める割合が約48%という状況に対して、女性警察官の割合が6.8%（H25.4.1）では、県民（特に女性）の安心感に問題がある。平成33年に女性警察官の割合を10%にするという計画は本当に達成できるのか。

②ストーカー事案に対する県警の対応について

【質問のポイント】

昨年10月に東京三鷹市で起きたストーカー殺人事件は、事件当日に、被害者が三鷹署に行き相談している事案である。同様の事案は、どこでも起こり得る事案であり、県警は、この事件から教訓とすべき事を学び犯罪予防に万全を期すべきである。県警の対応方針はどうか。

③県立ふるさと支援学校におけるICT機器を利活用した国の実証研究事業の平成26年度以降の継続性について

【質問のポイント】

生徒と教員全員に、1人1台のタブレットパソコンと各教室に電子黒板を配備した授業環境は、生徒の基礎学力向上や自立性を高める等多くの成果を挙げており、国の事業が本年度で終了するからといって打ち切るべきではないと

考える。県は継続性についてどう考えているのか。

(12月11日)

教育委員会制度改革について

【質問のポイント】

教育の執行権限を教育委員会から首長に移すか、教育委員会に残すかについて議論してきた中央教育審議会が両論併記の答申を行うのを受けて、いよいよ国会で、地方教育行政法の改正論議が始まる。私は、教育委員会制度の運用の見直しは常に必要だが、教育の執行権限を首長に移した場合のリスク（教育への不当な介入、偏り、継続性の阻害等）を考えれば、この改正はすべきでないと思う。

首長が常に教育について適正な判断ができるとは思えない以上、首長の教育理念を尊重しつつ教育委員会が教育行政の方向を決めていくべきだ。

(質問および答弁の詳細は、富山県議会のHPをご覧ください)

自民党県議会議員会の活動

自民党県議会議員会は、県政の重要課題について、随時、国や知事に対し、要望・提言を行ってきた。

(9月25日) 北陸農政局（金沢市）を訪問し、齊藤局長はじめ関係部課長に、富山県農業に関する次の6項目の要望をした。農政の重要な転換期であり、1点目、2点目の骨太の要望項目を含むものとなった。

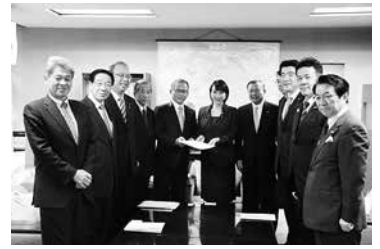
1. TPP交渉にあたっての対応
2. 攻めの農業の構築
3. 中山間地域対策の充実
4. 土地改良事業予算等の確保
5. 農業用水を利用した小水力発電の推進
6. 国営総合農地防災事業「庄川左岸地区」等の促進と地元建設業者等の受注機会の確保

これらの要望について、相当突っ込んだ意見交換を齊藤局長と行った。局長からは、本省に言うべきものはしっかりと伝える、要望について検討し前進させたい、との趣旨の発言を頂いた。



(11月11日、12日) 自民党浜田幹事長代理、高市政調会長、野田総務会長に対し、県民の要望を集約した10項目(49の細目)の「富山県重要要望」を提出した。私は、3人の党幹部に対し、「アベノミクスの経済対策が地方に浸透し、その成果が出ることを切に願う。そのためには、自民党の原点である地方重視（水、食料、電力、人等の元は

地方である事)を忘れてはいけない」という点を強調した。要望した10項目は、①地方税財源の確保・充実②地域経済再生の早期実現③消費税上げに対する経済対策④社会福祉及び保健医療対策の充実⑤攻めの農林水産業の推進⑥国土強靱化に向けた公共事業の拡大と発注の平準化⑦北陸新幹線の整備促進⑧地域公共交通ネットワークの構築⑨日本海側の総合的な交通体系の整備⑩真の人間力を育む教育の再生。



富山・地方の声が平成26年度の政策・予算や制度づくりに反映される事を願う。

(11月28日) 石井知事に対し、平成26年度予算要望並びに県政重要課題についての提言を行った。自民党県議会議員会は、春から15市町村支部や78の各種団体と意見交換を重ね、また現地視察や先進地視察、様々なテーマの勉強会をして、309の基本要望、14の重点要望、10の提言にまとめた。言わば県民の声の凝縮と言える。

【県政重要課題についての10の提言】

- 1) 新幹線開業に向けての取組み
- 2) 並行在来線対策等の推進
- 3) 地域経済の活性化
- 4) 観光振興
- 5) 攻めの農林水産業の推進
- 6) 子を生み育てやすい環境の推進
- 7) 安心できる医療福祉施策の推進
- 8) 防災・減災対策の充実・強化
- 9) 真の人間力を育む教育の再生
- 10) 元気な富山県づくりと財政の健全化

石井知事は、自民党の要望・提言に対し、これまで真摯に対応し予算や政策に反映してこられた。今回の要望に対してもその事を期待する。

トピックス

○パークゴルフ大会

11月9日、かくま正一親睦パークゴルフ第3回大会開催。晴天に恵まれ、多数の皆様が参加して下さり、楽しく盛会に実施させて頂きました。入善地区、宇奈月地区からも参加して頂きました。優勝チームは、泊2区からの参加チームでした。

○立山黒部ジオパーク推進協議会が設立

12月9日、立山黒部ジオパーク推進協議会（代表：中尾哲雄氏）が設立された。設立の場に県東部地域産業活性化議員協議会長として出席した。これから、平成26年の「日本ジオパーク認定」に向けて活動が本格化する。そして近い将来の「世界ジオパーク認定」を目指す。

宮崎海岸のヒスイや杉沢の沢スギ、埋没林、氷河、温泉等、県東部の貴重な山、川、海の資産、資源を活かしたジオパーク認定がなされれば、次代を担う子供達がふるさとを学ぶ絶好の教育の機会となり、また観光を通して地域活性化につながる大きなチャンスとなる。新幹線時代の到来に向け、富山県の魅力発信に大きな弾みとなる。当協議会は、認定に向け、また認定後も継続した後押しをしっかりとしていかなければならない。

○富山第一高等学校に感動

1月17日、富山第一高等学校に対し、全国高等学校サッカー選手権大会での初優勝を祝して、富山県青少年スポーツ特別栄誉賞が贈呈された。6試合を戦ったのに素晴らしい優勝であり、特に決勝戦は、家で何回、声を張り上げ手を叩いたことか。

大塚一朗監督の「リスペクト(尊敬)」というサッカー理念は私の胸に刻まれた。これは、サッカーにとどまらないことと思う。また、優勝直後、監督は、「田舎の選手も優勝できることを示せた」と話された。田舎の価値の追求をライフワークとしている私にとり、この言葉は本当に嬉しかった。

私は、高校生から感動をもらって有難うで終われない、この感動をバネにして大人は、それぞれの場で何かをしなければ、と思う。私は、政治に携わる者として、彼らに代表される若者や後に続く若者に、良いふるさと富山を残す努力をすることが、感動に応えることだと思う。



ゆうせいかい 熊正会からお知らせ

熊正会は鹿熊正一県議を資金面で支援する資金管理団体です。鹿熊県議の政治活動並びに後援会活動が一層充実し活発になりますよう皆様の温かいご支援を心からお願い申し上げます。年会費は、個人、法人とも一口5,000円からです。

お問い合わせ等は鹿熊正一事務所までご連絡下さい。

まさかず かくま正一通信 (No.24)

発行日 平成26年2月

発行者 熊正会・自由民主党富山県議会議員会

事務所 〒939-0742 下新川郡朝日町沼保1173-1 TEL 0765-82-1333 FAX 0765-82-2113

正一メールアドレス masakazu@kakuma.net

©「かくま正一通信」は資源保護のため再生紙を使用しています。